

古謝 げんた



38歳。

未来をつくる即戦力



努力のげんた

那覇市首里石嶺町の出身。父は医師で実家は宮古の古謝そば。中学、高校は野球部で5番ファーストとして活躍。化学に興味を持ち、猛勉強で難関の東京大学薬学部に進学しました。

沖縄県民の皆様、古謝玄太と申します。
 那覇市の首里に生まれ、沖縄の歴史と文化の息づかいを感じながら育って参りました。
 大学卒業後は総務省に入り、国の中枢で様々な経験を積んできました。岡山県や長崎県に赴任し地方の実情をつぶさに見て回ることもあれば、東日本大震災の復興事業を担当し被災地の産業支援に携わったこともあります。
 充実した公務員生活でしたが、学生時代からいつかは故郷の沖縄のために役に立ちたいとの思いを強く持っていました。これまでに得た国・地方での知識や経験、人脈で沖縄のためにもっと貢献できるのではないかと。そう考えるに至り、新たな一歩を踏み出すことを決めました。
 今年は本土復帰50年の節目です。これからの50年は、沖縄が日本をリードする時代となるよう、共に目指していきましょう。

げんたのめざす未来

みんなが笑顔でいられる

沖縄をつくりたい

毎日の出来事を語る子どもたちの笑顔は何ものにも代えがたいものがあります。子どもたち、そして県民の誰もが平和でのびやかに暮らせる沖縄をめざします。

誰もがチャレンジできる

沖縄をつくりたい

格差や貧困の解消、待機児童ゼロ、そして就学や就職への支援に取り組み、沖縄で生まれ育った誰もが活躍できる社会をめざします。

しなやかな経済の

沖縄にしたい

沖縄の経済の特徴と言われた3K(基地・公共事業・観光)に代わる新たな5K(観光、健康、環境、海洋、起業)で社会情勢の変化に左右されないしなやかな経済をめざします。





げんたってどんな人？

沖縄生まれ総務省勤務

東北の被災地や長崎県の離島、現場で汗を流す



笑顔力のげんた

小さな頃から笑顔の絶えない子どもでした。笑顔っていいですね！誰もが笑っていただける社会にすることがめざす政治の一丁目一番地です。



チーム力のげんた

中学・高校では野球部に所属。高校では5番ファーストが定位置でした。チームワークの大切さと最後まであきらめない姿勢を学びました。



現場力のげんた

東日本大震災の発生直後に宮城県のイチゴ農家のもとに駆けつけボランティアで津波による土砂の除去作業にあたる。その後も長崎や沖縄で地域をまわらず歩き回るなど現場主義がモットー！



地元愛力のげんた

東京での学生生活では沖縄出身者同士で集まり語り合ううちに地元愛を強く覚えるように。東大沖縄県人会を設立し初代会長に。学園祭ではエイサーを披露しました。



父親力のげんた

妻との間に3女1男の子たくさん。子どもたちの笑顔がげんたの活力の源です。出向や出張の多い生活を支えたのが妻の亜希子さん。家族ともじっくり話し合っただけで決める姿勢はげんたが目指す政治の原点。



聞く力のげんた

長崎県に赴任中は観光や文化の振興、そして財政などを担当。長崎県は沖縄と並ぶ離島県です。離島ならではの資源をどう活かすか。島の人々の意見にじっくり耳を傾けながら取り組みました。



政策力のげんた

大学卒業後は総務省に入省。内閣官房で沖縄振興を担当した時には、西普天間住宅跡地の再開発ややんばるの世界自然遺産登録に関わりました。沖縄出身の公務員やビジネスマンらと政策研究会「おもろ会」を立ち上げたことも。

プロフィール

- 1983年那覇市出身 38歳
 - 那覇市立石嶺小学校・石嶺中学校卒業
 - 昭和薬科大学附属高校卒業 (26期)
 - 2006年3月 東京大学薬学部卒 **東大沖縄県人会立ち上げ、初代会長**
 - 2008年4月 総務省入省 (旧自治系・国家1種・経済職) **57年ぶりの自治省系沖縄出身者**
 - 2008年～2009年 岡山県市町村課
 - 2010年～2012年 総務省 (情報流通振興課、調整課)
 - 2013年4月 内閣官房副長官補付 **官邸付の沖縄振興担当として跡地利用などに取り組む**
 - 2014年～2018年 長崎県 (観光振興課企画監、国際課長、文化振興課長、財政課長) **世界遺産を活用した離島振興などに取り組む**
 - 2019年4月 復興庁参事官補佐 **福島国際教育研究機構拠点構想立ち上げ**
 - 2020年4月～ NTTデータ経営研究所 **沖縄のベンチャー企業向け研修事業を企画運営**
- 資格：薬剤師
家族は妻と三女一男 (中学生～5歳)



沖縄の未来を笑顔に!

沖縄の持つ可能性を街頭で呼び掛ける古謝げんたさん



古謝げんたさんの 決意と抱負

私はこれまで、総務省・内閣官房・復興庁といった国の中枢において、また、岡山県庁・長崎県庁での地方自治の現場において、日本の可能性と課題について多くの経験を積んできました。また、常にふるさと沖縄に思いをはせ、大学では沖縄県人会を立ち上げエイサーを披露し、社会人になってからも関東の沖縄出身者・沖縄関係者を集めた政策勉強会を主催してきました。

本年は、沖縄の日本復帰50周年という重要な年です。この節目の年に、これまで国・地方・民間で培ってきた経験・知見・ネットワークをフル活用し、沖縄のよりよい未来のために働きたいと考え、政治の道に進むことを決断しました。私は、これからの50年は「沖縄が日本をひっぱる時代」にしたいと考えています。沖縄独自の文化や自然は、観光のみならず海洋や健康、環境などさまざまな産業を生み出す可能性が溢れています。誰もがチャレンジできる沖縄をめざして、尽力していきたいと思えます。



沖縄県

古謝げんたさん

激戦を勝ち抜く

～ 参院選1人区新人特集 ～

本土復帰50周年を迎える沖縄県。参院選の公認候補・古謝げんたさんは38歳。初めての「本土復帰後世代」の候補者だ。次の50年へ、沖縄の未来を笑顔にする即戦力として、期待が高まっている。

公式ホームページ 公式Instagram 公式Facebook



古謝げんたさん 3つの政策

- **しなやかな沖縄経済の実現**
 - ・ コロナ禍で疲弊した経済の復興、必要な公共投資の促進
 - ・ 社会情勢の変化に対応できる新5K（観光、健康、環境、海洋、起業）産業の振興
 - ・ 地域特性とICT・IoTを生かした農林水産業の振興
- **誰もがチャレンジできる沖縄**
 - ・ ヒト・モノ・カネの視点での起業・創業支援
 - ・ 県内外の人材循環を促進するための環境整備
 - ・ リカレント教育など多世代に対する教育機会の提供
- **みんなが笑顔でいられる沖縄**
 - ・ 福祉政策の充実により自分らしく生きることができると社会を実現
 - ・ 格差や子どもの貧困の解消に取り組み、貧困の連鎖を止める

38歳。未来をつくる即戦力

～ 古謝げんたさん サイドストーリー ～



東大の学園祭でエイサーを披露する古謝さん



小学生の古謝さん(右)

東京で「沖縄の可能性を再発見」

古謝さんは那覇市生まれ。昭和薬科大付属高では野球部に所属し、5番打者一塁手だった。古謝さんは東大に進学。初めて沖縄を出て、本土での生活は

「寒さがたえた。冬になると成績が下がってしまった」と振り返る。大学では沖縄県人会を結成。初代の会長に就任し、学園祭ではエイサーを披露した。「エイサーが終わると自然とカチャーシー(沖縄の手踊り)が湧き上がり、沖縄文化のすばらしさを感じた」と古謝さん。沖縄は常に古謝さんの心にあった。

大学卒業後は総務省に入省。岡山県庁、長崎県庁に赴任し、まちづくりの最前線に足を運び、地元若者と共に活動した。

令和2年に総務省を退職。研究等、さまざまなプロジェクトに参加した。沖縄のスタートアップ経営者向けの研修プログラムも実施し、「沖縄のこれからの可能性を再発見」にかかわる「関係人口」の調査したと語る。

「フューチャー」の心で未来を描く

転職はコロナ禍と重なり、担当大臣から、参院選の立候補を打診される。入社早々、在宅勤務。4人の子供を育てる古謝さんは、仕事をしながら、子供たちの時間を大切に過ごしてきた。そんな古謝さんに突然の転機が訪れる。西銘恒三郎沖縄増える人口の活用策を考えると、この可能性を生かしたい」と考えてきた古謝さんにとって、政治こそがその思いを生かせる舞台と考えた。打診からわずか2週間ほどで、立候補を断然した。古謝さんは、「自然を生かした環境産業、独自の食文化による健康産業、広大な資源が眠る海洋産業、米国西海岸に負けない新たなスタートアップ文化を、沖縄が日本と、強い沖縄の具体策を語る。古謝さんのお名前を、古謝の未来を明るくする。」



県内のFM番組に出演した古謝さん(中央)。いつも笑顔で周囲を明るくする

古謝さんに産まれた、「フューチャー」(沖縄出身者)としての思いを常に心に

機械紙自由民主購読のお申込みはこちらから

